

東京2020ライブサイト等の実施について

1 経過

2020年1月	東京2020ライブサイト等実施計画(案)(以下「当初計画」という。)を公表。今夏の実施に向け準備に着手
3月末	大会延期決定後、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた当初計画の再検証を開始
6月～	2021年の大会の位置づけ・原則の決定を受け、今後のライブサイトの方向性についてIOC、組織委員会と協議・検討
9月	都をはじめ、開催予定自治体が、簡素化や感染症の状況を踏まえた実施形態となるよう計画の再検証を進めながら、ライブサイトを実施する方針をIOC・組織委員会と確認
11月	東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議(以下「コロナ対策調整会議」という。)において、「ライブサイトにおける感染症対策について(案)」を組織委員会が報告し、対策の方向性を確認
12月	コロナ対策調整会議の中間整理

2 2021年の実施に向けた都の方針

- 新型コロナウイルス感染症を乗り越え、都民・国民の共感を得て大会を成功させるためには、都市の活動であるライブサイトの開催は重要。適切な感染症拡大防止対策を行った上で実施
- 東京2020ライブサイト等については、感染症拡大防止の観点から、会場と周辺で、来場者がフィジカル・ディスタンスを確保でき、密を生じない運営ができることが必要。この点を中心に検証し、結果を踏まえて当初の会場計画を変更。具体的な内容は、次頁の項目3のとおり
- 会場の運営に当たっては、現在対策を実施した上で開催中の各種スポーツイベント等に関する政府や各団体のガイドライン、先行事例から得られた知見、専門家の意見等を踏まえた対策を実施。具体的には、下記の項目を中心に、今後の感染の状況等も踏まえて継続的に検討

(1) 感染症を踏まえた安全安心な環境づくり

- ・ 来場者・ボランティア等会場に集う人々に安全で安心な環境を提供するため、案内誘導や清掃を拡充する等、感染症拡大防止対策の徹底を検討
- ・ 混雑・密集防止のための会場レイアウト、事前申込制の導入等の方策についてもあわせて検討

(2) 実施コンテンツについて

- ・ 競技体験・ステージイベント等実施予定のコンテンツについては、感染症拡大防止対策を踏まえた実施内容及び方法で実施を検討

(3) 開催日程

- ・ 上記対策を徹底した上で、都内・被災地ともに、変更後の実施予定会場については、当初計画上の開催期間・開催時間を基本に実施を検討

(4) 来場者想定

- ・ 混雑・密集を回避するため、会場ごとの入場設定人数について検討し、当初計画上の1日当たり来場者想定については引き続き精査

3 今後の会場計画について

(1) 東京2020ライブサイト

○拠点会場（都立代々木公園・都立井の頭恩賜公園）

十分な広さがあり、会場内や周辺で適切な人流コントロールが可能。必要な感染症対策を行った上で当初計画を基本とした実施

○その他の中規模3会場

ライブサイト会場だけでは、入場キャパシティーに限界があることから、混雑や密を避けた安全な運営のため、分散化を図り、会場周辺を含めたエリア全体での盛り上げに転換

なお、高輪ゲートウェイ駅前特設会場は、来夏使用できないことから実施しない。

・池袋西口公園

感染症対策上、安全な規模と運営を確保するため、豊島区と協議の上、区を中心とした実施形態に転換。会場周辺は、引き続き区と連携して、東京芸術劇場を擁する文化の拠点として盛り上げるエリアに位置付け

・東京都庁舎

入場規模を抑制せざるを得ない屋内での競技中継は見合わせるが、都庁舎内でのマスコットフォトスポットや大会関係展示、ライトアップ等を計画通り実施。周辺地域のシティドレッシングとともに、開催都市の拠点にふさわしい祝祭感を演出し、盛り上げるエリアと位置付け

(2) 都のパブリックビューイングを核とする盛り上げ会場

- ・ 適切な感染症対策を行った上で当初計画を基本に実施
〈都内会場一覧（変更後）〉

東京 2020 ライブサイト	区部拠点会場	都立代々木公園
	多摩拠点会場	都立井の頭恩賜公園
都のパブリックビューイングを核とする盛り上げ会場		都立日比谷公園
		都立上野恩賜公園
		東京都立大学 南大沢キャンパス周辺 【講堂内】（オリンピック期間）
		調布駅前広場周辺【調布市グリーンホール内】 （パラリンピック期間）
オリンピックプロムナード（組織委員会が中心となって展開する盛り上げエリア）		
豊島区と連携して文化の拠点として盛り上げるエリア		
開催都市の拠点として都庁を中心に盛り上げるエリア		

(3) 被災地 東京2020ライブサイト

- ・ 各県と協議の上、適切な感染症対策を行った上で当初計画を基本に実施

4 具体的な感染症対策の方向性

- 来場者の安全と安心が確保できる実施形態となるよう、各会場のレイアウトの見直しや事前申込制など、抜本的な対策を検討中
- 基本的な感染症対策については、コロナ対策調整会議での検討を経て取りまとめられた「ライブサイト実施における新型コロナウイルス感染症対策の指針」（組織委員会策定。以下「指針」という。）に基づき、下記を柱に徹底
 - ① 3密（密閉・密集・密接）の回避
 - ② 飛沫感染・接触感染防止
 - ③ 殺菌・消毒の徹底
 - ④ 体調管理・確認の徹底
 - ⑤ 遵守事項等の広報・事前周知の徹底
 - ⑥ 陽性者・体調不良者発生時等の対応計画の作成
- 具体的な実施に当たっては、会場のエリアごと（競技中継観覧エリア・競技体験エリア等）、また入退場や観戦・応援等の場面ごとに必要な対策をきめ細かく検討

5 今後の進め方

- 会場のレイアウト、入場設定人数等の感染症拡大防止対策を反映した会場運営の基本となる事項の検討をさらに進め、来春を目途に「東京2020ライブサイト等実施計画」に反映。実施に向けた準備を着実に進める。
- 具体的な感染症対策については、引き続き今後の感染状況や新たな知見等を踏まえるとともに、競技会場等での対策なども参考としながら、大会本番まで安全安心の確保に向けた取組を継続する。

6 区市町村が実施するコミュニティライブサイト等への支援

- コミュニティライブサイトについては、11月に組織委員会（実施承認権者）が各開催予定自治体に対し、感染症の状況を踏まえた計画の再検証を要請
今後、各自治体は、組織委員会が12月に策定した指針に基づき、会場ごとの感染症対策に係る計画を作成。組織委員会と協議・調整を行いながら、安全安心な開催に向け取組を進める予定
- パブリックビューイングについては、来年4月以降に組織委員会が申請受付予定。先行的な検討・知見をもとに、各自治体の適切な安全対策を支援
- 都は、各自治体が感染症対策を適切に行い、都内全体で安全に大会が楽しめるよう、適切な情報提供、相談対応や補助制度による支援を継続予定